

平成23年度「重点研究費」研究成果報告書

申請区分	B	配分額	700,000 円
研究課題	多文化コミュニティにおける相互理解・協働のための社会関係資本に関する比較研究 ——多文化教育のための基盤として——		

研究代表者

氏名	所属	職名
渋谷英章	教育学講座	教授

研究分担者

氏名	所属	職名
有澤知乃	留学生センター	講師
見世千賀子	国際教育センター	准教授

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字)

1. 多文化教育と社会関係資本に関する理論研究の検討——多文化コミュニティと多文化教育に関して、社会関係資本の視点から分析することの意義を確認しつつ、今回の調査の方法を検討した。

2. 学芸大学における日本人学生と留学生のインタラクションの機会に関する調査——日本人学生と留学生に対して質問紙調査を実施し、相互交流の機会の状況について確認した。さらに、その回答者の中から一定の条件にある学生を抽出してインタビューを実施し、具体的な相互交流の実際と相互理解の状況について聞き取りを行った。その結果、①文化や行動様式の違いよりも、不十分な言語コミュニケーション能力が円滑な相互交流の妨げとなっている、②組織的な授業や相互交流プログラムなど組織的だけでは、お互いの違いが強調され、日常的で継続的なつきあいにはつながりにくい傾向がみられる、③同じクラスやサークルで、あるいは同じ学生宿舎でのインフォーマルなつきあいが活発である場合には、お互いの国や文化の違いを意識することが少ない傾向があること、などが確認された。

3. レスター大学での International Students に対する取り組みの調査——上記調査で確認した学芸大の状況と比較しつつ、International Students の在籍者数が多いレスター大学における取り組みの状況を現地調査により確認した。そして、①学生の間には出身国の違いだけでなく、エスニシティや宗教などの違いによる多様性が存在する、②より多くの International Students を受け入れようとする大学のポリシーに応じ、International Students に対しては、異文化間の相互理解の促進というよりも、International Students がレスター大学での生活になるべく早く適応し、安全で充実した生活を送ることのできるような条件整備に力を入れている、③そのため、到着したばかりの International Students に対するオリエンテーション・プログラムや、Home Students による支援としての Buddy 制度に力が注がれている。④また、Chaplaincy Centre が定期的開催する International Tea では、英語によるコミュニケーションが十分ではない International Students に対し、気軽に英語で話す機会を提供することを中心的目的としている。

4. レスター大学 School of Education の Dr. Mechalis Kakos ならびに Dr. Chris Comber とのディスカッション——英国におけるシティズンシップ教育と異文化理解や、レスター大学における異文化間交流と相互理解に関する研究状況について確認するとともに、学芸大とレスター大学の現状の比較検討と社会関係資本についての意見交換を行った。

研究成果発表方法

- ・大学生の異文化間インタラクションの機会と相互理解に関する比較研究——東京学芸大学とレスター大学を対象として、渋谷英章・見世千賀子、日本比較教育学会第48回大会、(発表予定)
- ・(仮)多文化コミュニティにおける相互理解・協働の教育に関する研究——社会関係資本の視点から渋谷英章、見世千賀子、有澤知乃、東京学芸大学紀要(執筆中)